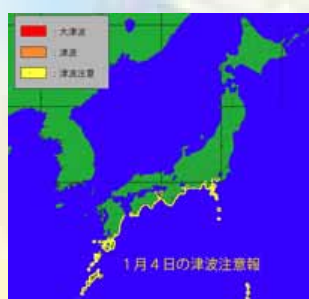


自分の力で未来をひらく防災学習

今地球が大変な時期をむかえています。地球が活動期に入ったという言葉聞いたことがあるかもしれませんが、自然というのは、1年に1回梅雨があるように、地球という大きな規模で見たときに、何年かに大きな災害が続いてやってくる時期があります。私たちはしばらく、平和な時期というのか、大きな災害のない時期を過ごしてきましたが、「阪神・淡路大震災」が起こった頃から、地球は活動期に入ったと言われていています。これからは大きな災害が次々とやってくるでしょう。そういう時期にいま私達は直面しています。

先日、1月4日にもインドネシアのニューギニア島の北側で M7.5 の地震が発生し、日本沿岸にまで津波が到達しました。昨年には中国で四川大地震の M8.0、日本では岩手・宮城内陸地震の M7.2、日本全体で考えれば M3 以上が毎日どこかで発生している状態が続いてい



ます。このようなことは、これからしばらくは続いていくと覚悟をしなければなりません。ですからもっと多くの人々の命が災害によって失われるかもしれないという危機の時代に、私たちはさしかかっているということを認識する必要があります。

さて、戦争は日本に関係がないと思っている人がいるかもしれませんが、最近の日本の社会を見てみると、親が子どもを殺したり、あるいは、子どもがお年寄りをいじめたりするような状況が生まれて、犯罪も増加の一途です。本当にこういう時代がこのまま続いたらどうなるのだろうかということも、ぜひ考えて欲しいと思っています。このままいくと、人間の命が本当に粗末にされてしまいます。多くの命が毎年のように失われる時代になるかもしれないということを、私たちはしっかりと認識しなければなりません。自分の力で自分と自分の大切な人の命を守るということをこれからしっかり考え、そしてやっていかなければならないと思います。その担い手は誰かということ、私たちであり、**あなた自身**なのです。21世紀、本当に幸せで明るい、人間にとって素晴らしい世紀にするということが、今の私たちに課せられている大きな課題なのです。

その為にも、災害の体験をしっかりと後世に伝えていくことです。それには子どもや孫にも継続して「**伝えていく**」努力をしなければなりません。人間の豊かな感受性で災害の悲しみ、辛さというものを伝えていってほしいと思います。

震災体験を風化させてはいけません。「もうあれは過去のことだ」、あるいは「もうここには地震は来ない」等と思っている方、またはそう思いたい方、それでは同じ過ちを繰り返すだけです。

スマトラ沖地震の時に、波が引いたら津波がやってくるということを先祖代々言い伝えてきた村がありました。その村人は、その海の水が引いた途端に津波が来るということでみんな高台に逃げて助かりました。だから、同じインド洋の中でもそういう伝承がしっかり伝わっていて、経験が伝わったところとそうでないところで、生死の境というか、尊い命が奪われたところもあり、命が守られたところもあります。それだけ、体験をしっかり伝えるということが大切なのです。阪神・淡路大震災を知る我々は、家具の転倒防止をしっかりしておかなければなりません。また、家の中には水を溜めておかなければなりません。

イタリアのローマにある「トレビの泉」はご存じでしょう。でもどうして「トレビの泉」があるのか知っていますか。今から1900年以上も前のことです。ローマでは何度も何度も大きな火事がありました。その火事を消すために山の裏から水を引き入れてきて、いたる所に噴水を作ったり、プールを作ったりしています。今でもローマの人たちは、ある時期にお祭りをします。その時には何と広場が一斉に水で満たされます。ローマは元々水の無い都市でしたが、いたる所に水がある文化ができあがっています。それは、水が大切だという文化をずっと言い伝え、受継いでいるために、結果としてローマは現在大きな火事は起きない街になっているのです。



では我々はどうでしょうか。私達が震災体験で学んだことが本当に次の地震に対して「**命を守る**」ための文化として育っているのでしょうか。そのことをもう一度考える必要があると思います。例えば、家が壊れたらどうして壊れたのかを考えることです。それはみんなが大掃除をしなくなったからです。屋根の瓦が重たかったから壊れたわけではありません。床下にシロアリがたくさんいて、湿気で土台が腐っていたから家は壊れたのです。



そうすると、土台が腐らないように手入れをしなければなりません。毎日綺麗に掃除をして、毎日整理整頓をすることも「文化」です。そういう意味では、日常の中で家族、親を大切にするというのも「文化」です。そういう日常生活の中にしっかり体験を受け継いだ暮らし方をしていくことが、体験を風化させないことであると思っています。

2月号につづく

(関西学院大学教授・神戸大学名誉教授・室崎益輝先生の講演の言葉から一部を使用させていただきました)

年頭に一言。自分を守るためには、すべてにおいて「**真実を知る**」ことです。**デマや噂話**に惑わされない**真実を見抜く心**を持たなければ、あなたはあなたの大切な人の命を守ることはできません。グリーンシティ防災会は今年も「みなさまに真実」をお伝えしてまいりますので、疑問を感じる事があれば「何なりとご質問ください」